

現代の口訣の構築 「柴胡桂枝湯」と「人参養栄湯」の口訣を考える

柴胡桂枝湯の口訣を考える

木村 柴胡桂枝湯は、小柴胡湯と桂枝湯を併せ持つ処方で、傷寒・中風などの感染症の急性・亜急性期の病態に用います。さらには、慢性期の病態へも応用します。

『傷寒論』や『金匱要略』の条文を基に、柴胡桂枝湯は痛み（支節煩疼、心腹卒中痛）、精神的な症状（亡陽譫語）、上腹部季肋下の腹直筋の緊張（心下支結）などを治す処方として慢性期の病態に応用できます（図1）。

●インフルエンザに罹患してから半年継続する 食思不振、倦怠感に柴胡桂枝湯が奏効した1例

木村 インフルエンザ罹患後に継続する食思不振、倦怠感に柴胡桂枝湯を用いた症例を、岡林先生にご紹介いただきます。

岡林 症例は46歳の女性で、主訴は食思不振と倦怠感です。半年前にインフルエンザ罹患後より月経周期の短縮、めまい、吐き気、にきびが出現し、他院で当帰芍薬散と帰脾湯を処方されましたが無効で、X年12月28日に当院を受診しました。Hb値は11.0mg/dLと明らかな貧血は認めません。元々脂っこいものを食べず、温かいものが好きで、胃腸虚弱があります。めまいは半夏白朮天麻湯 2包/日の服用で改善しましたが、インフルエンザ罹患後より、めまいなどの症状に加えて、さらに食思不振、倦怠感も継続していることがわかりました。そこで、柴胡桂枝湯 2包/日を追加したところ速やかに症状は消失しました（図2）。

木村 インフルエンザに罹患してから半年と、少陽病期としては長いと思いますが、なぜ柴胡桂枝湯を使用されましたか。倦怠感や食欲不振には補中益気湯も考えられます。

岡林 それまでみられなかった心下痞鞭、胸脇苦満、腹皮拘急などが認められるようになったため、少陽病期の症状と捉えて柴胡桂枝湯を処方しました。

●感冒後に柴胡桂枝湯—ご自身のご経験—

木村 幕内先生にはご自身の感冒後に柴胡桂枝湯を服用されたご経験を紹介していただきます。

幕内 2月の寒い日の罹患で、発症時は発熱や咳、咽頭痛がありました。発熱は1日で軽快しましたが、3日目には頭痛と倦怠感が出現し、微熱が残っていました。自身で腹診をとり胸脇苦満を認めたので柴胡桂枝湯を4日間服用したところ、比較的気持ちよく治癒しました。また、多忙で

図1 柴胡桂枝湯—慢性期の病態への応用—

【傷寒論】

「傷寒6 7日 発熱 微惡寒 支節煩疼 微嘔 心下支結 外証 未だ去らざる者は 柴胡桂枝湯 之を主る」

「汗を発すること多くして、亡陽譫語の者は下すべからず、柴胡桂枝湯を与えてその榮衛を和し、以て津液を通ずれば自ら癒ゆ」

【金匱要略】

「外台の柴胡桂枝湯の方は心腹卒中痛の者を治す」

「支節煩疼」「心腹卒中痛」⇒ 痛み（関節痛 胸部から腹部がにわかに痛む）
「亡陽譫語」⇒ 精神的な症状
「心下支結」⇒ 上腹部（季肋下）腹直筋の緊張

図2 症例 46歳 女性

主 訴

食思不振、倦怠感。

身体所見

身長 153cm、体重 53kg、BMI 22.6kg/m²、血圧 112/74mmHg

東洋医学的所見

脈候：浮沈中間、虚実中間。

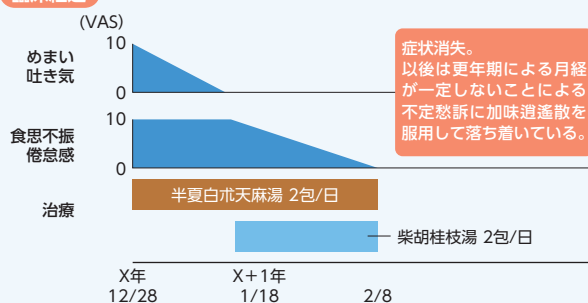
舌候：淡紅色、やや胖大、歯痕土、舌下静脈怒張（指示が通らず判定できず）。

腹候：腹力3/5、心下痞鞭+、胸脇苦満+、臍上悸+、臍傍圧痛+、腹皮拘急土、小腹不仁土。

自覚症状

足が冷える、疲れやすい、身体が重い、全身だるい、汗がでない、浮腫、焦燥感、無気力、怒りっぽい、忘れっぽい、非回転性めまい、たちくらみ、食後の眠気とどるさ、便通普通、尿普通、月経周期が一定しない。

臨床経過



したので錠剤の飲みやすさも実感しました。

●急性膵炎治療後も長期にわたり持続する 心窩部痛に柴胡桂枝湯が奏効した1例

木村 柴胡桂枝湯は痛みにも使用されます。膵炎後の心窩部痛に柴胡桂枝湯が奏効した症例を玉田先生にご紹介いただきます。

玉田 症例は48歳女性で、主訴はみぞおちの痛みです。46歳時に急性膵炎の疑いで入院し、退院後は徹底した食事管理と服薬で経過は良好でした。しかし、約1年前からみぞおちに鈍い痛みが続くようになり、漢方治療を希望して来院されました。痛みの原因となる西洋医学的検査異常所見はなく、東洋医学的所見に基づき、やや虚・寒熱中間・肝気鬱結・軽度の瘀血と診断しました。また典型的な心下支結の所見に加え、胸脇苦満も認められたため、柴胡

桂枝湯 7.5g/日(分3)による治療を開始しました。服用後、痛みの程度と頻度はともに改善し、胸脇苦満や心下支結も消失しました。服用5ヵ月目以降は、有症状時の頓用のみで安定しています(図3)。

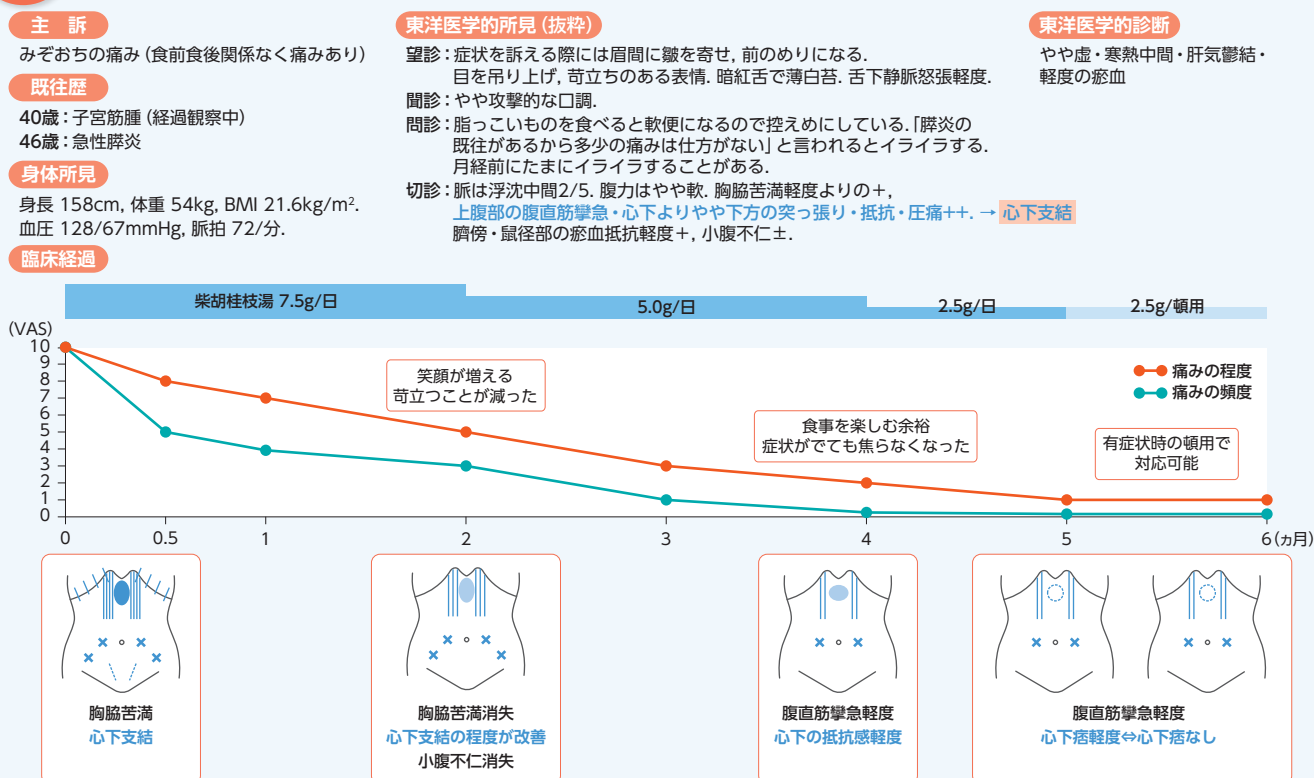
木村 患者さんは48歳ですが、月経前のイライラなどは更年期による影響もありましたか。

玉田 更年期障害の典型的な症状はありませんでしたが、月経前に精神的な不安定さが目立つ点は、多少なりとも更年期の影響があったのではないかと考えています。

木村 柴胡桂枝湯の服用で精神症状も改善したということでしょうか。

玉田 治療により痛みが改善し、QOLが向上したことによる影響が大きいと思いますが、柴胡桂枝湯の肝気鬱結を散じる作用も精神症状の改善に寄与したと考えます。

図3 症例 48歳 女性



第二部



●線維筋痛症に柴胡桂枝湯が奏効した症例

木村 痛みの診療機会が多い松本先生に線維筋痛症の症例をご紹介します。

松本 症例は43歳の女性で、主訴は全身痛(NRS 9-10)、倦怠感、不眠、食思不振、冷え、のぼせ、下痢・便秘、不安感です。複雑性PTSD(28歳から)、家庭内暴力や13年にわたる線維筋痛症の罹患があり、当院受診前は内服療法や星状神経節ブロック、さらに精神科での心理療法なども施行されていました。

全身痛に対する神経ブロックの施行でNSR 7まで軽減しましたが、不眠・不安感、倦怠感が強く、冷えと筋緊張に対して芍薬甘草附子湯 3包/日を処方しました。痛みはさほど軽減せず、消化器症状が強かったため、過去に線維筋痛症に奏効した経験のある柴胡桂枝湯 18錠/日を処方したところ、服用2週間後には「いつも痛いところが緩む感じ」「気持ちが明るくなる」との訴えがあり、2ヵ月後には痛みの閾値は半減しました。現在は、柴胡桂枝湯のみの服用で経過観察しています(図4)。

柴胡桂枝湯は、抗炎症作用、免疫調整作用、自律神経調節作用を有しています。本症例は柴胡桂枝湯が交感神経の過緊張を改善し、全身の症状の緩和につながったと考えます。

木村 食思不振や下痢・便秘などの消化器症状もありましたが、柴胡桂枝湯の服用後はいかがでしたか。

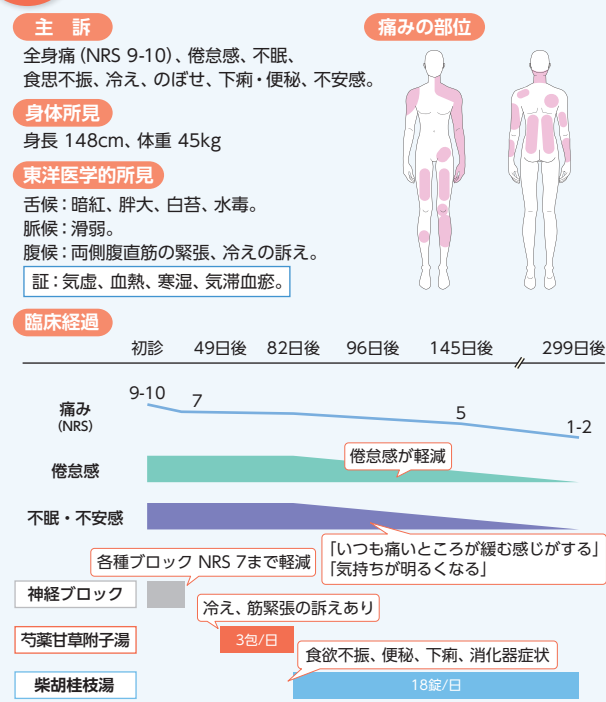
松本 柴胡桂枝湯を服用したことで食欲や便通も安定し、それによって疼痛閾値が上がったと考えています。患者さんは非常に明るく、元気になりました。

●息苦しさ柴胡桂枝湯が奏効した2症例

木村 息苦しさ柴胡桂枝湯が有効であった症例を玉田先生からご紹介いただきます。

玉田 症例1は23歳、症例2は75歳の女性で、息苦しさや肺が拡がらない感覚など類似した訴えがありました(図5)。気の巡りが滞って肝気鬱結傾向を示し、胸脇苦満や軽度の心下支結を認めたため、柴胡桂枝湯による治療を開始しました。その結果、2症例とも比較的速やかに症状が軽快しました。症例1では、5.0g分2の服用直後から息苦しさの軽減

図4 症例 43歳 女性



を自覚しました。その後、症状や所見の改善に伴って薬の漸減も順調に進み、服用4ヵ月で治療終了となりました。一方、症例2では、7.5g分3服用開始1週間後から坂道を難なく上られるようになり、症状も順調に軽快しましたが、薬を漸減できるまでにはやや時間を要しました。とはいえ、最終的に約半年で治療終了となりました。両症例ともに息苦しきの軽減に加え、精神的な安定や冷えの改善も認め、胸脇苦満や心下支結などの所見も改善した著効例でした。

木村 お二人とも「呼吸は普通にできるが、肺が拡がっていない感じ」と表現されていましたが、不安感などもあるので、半夏厚朴湯との鑑別も必要になると思いますがいかがですか。

玉田 気滞と診断していたため、半夏厚朴湯も念頭にありましたが、胸脇苦満と心下支結の所見を踏まえ、柴胡桂枝湯を選択しました。仮に心下支結がなく、胸脇苦満のみ認めていた場合には柴朴湯を、胸脇苦満も認められなければ、半夏厚朴湯を検討していたと思います。



木村 柴胡桂枝湯で冷えも改善したということですね。

玉田 両症例とも、手足の冷えには交感神経の過緊張が影響していたと考えられます。柴胡桂枝湯には肝気鬱結を散じる作用があり、それによって交感神経の過緊張が緩和され、結果として冷えの改善につながったと考えています。

●柴胡桂枝湯のまとめ

木村 感染症関連、慢性疾患(冷え・消化器症状・息苦しさ・精神症状・冷え)の症例をご提示いただきました。腹診では、胸脇苦満や心下支結などがありました。さらに柴胡桂枝湯の服用後には主訴の改善だけでなく、精神症状などの改善もみられています(図6)。

図5 息苦しさを主訴とする2症例

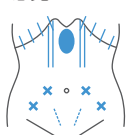
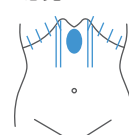
症例	症例1(23歳 女性)	症例2(75歳 女性)
主訴	息苦しさ(胸が圧迫されたような感覚・肺が膨らまない感覚)	息苦しさ(呼吸しづらい・肺が膨らまない感覚)
東洋医学的 所見 (抜粋)	望診: 不安げな表情だが目力はある。暗紅舌で微白苔。舌尖紅。 聞診: 主張したい内容を伝える際は強い口調となる。 (イライラした様子が見え隠れる) 問診: 安静時に息苦しさを自覚する(労作時の悪化なし)。 不安になると動悸が併発することもある。 一人になると呼吸に意識が向き、あれこれ考える。 呼吸は普通にできているが、肺が膨らまない感覚がある。 切診: 脈は浮沈中間3/5。腹力は中等度。 胸脇苦満軽度よりの+ (右優位)、 上腹部の腹直筋拵急軽度よりの+、 心下よりやや下方の突っ張り・圧痛+、 小腹不仁軽度、そのほか手足の冷えあり。 	望診: 表情は硬く緊張。紅舌。地図状の白黄苔。舌尖に皸裂あり。 聞診: 落ち着いた口調だが、他院で原因不明とされたことについて語る際は、批判的かつ強い口調となる。 問診: 労作時のほうがやや強いが、安静時にも息苦しさを自覚。 不安になると動悸が併発することもある。 一人になると呼吸に意識が向き、あれこれ考える。 呼吸は普通にできているが、肺が膨らまない感覚がある。 切診: 脈はやや沈3/5。腹力中等度。 胸脇苦満軽度よりの+ (左右差なし)、 上腹部の腹直筋拵急軽度、 心下よりやや下方の突っ張り・圧痛+、 そのほか足の冷えあり。 
診断・処方	やや虚～中間証・やや寒証・気滞(肝気鬱結傾向)・軽度の瘀血。 ⇒ 柴胡桂枝湯 5.0g/日(分2) 朝夕食前	中間証・寒証・気滞(肝気鬱結傾向)・胃熱。 ⇒ 柴胡桂枝湯 7.5g/日(分3) 毎食前

図6 柴胡桂枝湯の症例

所見 (BMI)	感染症関連	慢性疾患(痛み、消化器症状、息苦しさ、精神症状、冷え症)			
	岡林先生	玉田先生	松本先生	玉田先生	
	46歳 女性 (22.6)	48歳 女性 (21.6)	43歳 女性 (20.5)	23歳 女性 (19.9)	75歳 女性 (23.1)
主 訴	インフルエンザ罹患後 倦怠感・食欲不振	心窩部痛 (急性脾炎後)	線維筋痛症	息苦しさ	息苦しさ
胃腸症状 気虚症状	食欲不振 吐き気 食後嗜眠 倦怠感 易疲労感	食欲普通 油物で軟便	食欲不振 下痢・便秘 倦怠感	—	胃もたれ
精神症状	焦燥感 無気力 易怒	苛立ち表情 攻撃的口調 イライラ	不眠 不安感	イライラ 動悸 不安感 焦燥感	不安感 動悸
その他	汗がでない	みぞおちから背中への痛み 肩こり	全身痛	安静時に息苦しさを自覚 呼吸は普通にできるが「肺が膨らっていない」感じ	
腹 診	腹力中等度 胸脇苦満 心下痞硬 腹皮拘急 臍上悸	腹力やや軟 両側胸脇苦満 心下支結 臍脇圧痛	腹力中等度 心下痞 腹皮拘急	腹力中等度 右>左 胸脇苦満 心下支結 臍脇圧痛	腹力中等度 両側胸脇苦満 心下支結
冷え/月経	足の冷え 月経不順	月経前のイライラ	冷え のぼせ	手足の冷え	足の冷え
服用後	倦怠感・食欲改善 精神症状も改善	イライラ↓ 食事を楽しむ余裕 胸脇苦満・心下支結↓	痛みが緩む 気持ちが明るくなる 倦怠感↓ 不安感・不眠↓	笑顔↑ 前向き発言 不安感・イライラ↓ 冷え改善傾向 胸脇苦満・心下支結↓	前向き発言 冷え改善傾向 胸脇苦満・心下支結↓

第二部

■ 感染症関連

岡林先生にご提示いただいた症例は、少陽病期の応用と解釈することができます。そして、柴胡桂枝湯の服用後には倦怠感や食欲不振だけでなく、精神症状も改善しました。これらを『傷寒論』の条文に当てはめると、本症例は表証(発熱、微悪寒、支節煩疼)、少陽証(微嘔、心下支結)、精神症状(亡陽譫語)がみられています(図7)。

本症例では、柴胡桂枝湯と補中益気湯との鑑別が大切になります。『餐英館療治雑話』(目黒道琢)では、「風勞」に対して補中益気湯のような固表剤を用いると病態はさらに悪化することから、そのようなときには柴胡桂枝湯で余邪を取り除くことが大切であると記されています(図8)。

図7 感染症関連

所見 (BMI)	岡林先生 46歳女性 (22.6)	
主 訴	インフルエンザ罹患後、倦怠感・食欲不振	⇒6ヵ月継続
胃腸症状/ 気虚症状	食欲不振、吐き気、食後嗜眠、倦怠感、易疲労感	⇒少陽証
精神症状	焦燥感、無気力、易怒	⇒精神症状
その他	汗がでない	⇒表証
腹 診	腹力中等度 胸脇苦満 心下痞硬 腹皮拘急 臍上悸	⇒柴胡劑
冷え/月経	足の冷え 月経不順	
服用後	倦怠感・食欲改善、精神症状も改善	

『傷寒論』

「傷寒6、7日 発熱 微悪寒 支節煩疼 微嘔 心下支結 外証 未だ去らざる者は 柴胡桂枝湯 之を主る」
「汗を発すること多くして、亡陽譫語の者は下すべからず、柴胡桂枝湯を与えてその榮衛を和し、以て津液を還すれば後自癒ゆ」

表証
少陽証
精神症状

図8 柴胡桂枝湯と補中益気湯との鑑別について

● 目黒道琢『餐英館療治雑話』

「体質虚弱な人が、風邪を引いても節制をしないで、或は 誤って強い発汗剤を服して雨のように汗が出て、陽氣が虚脱し、表固まらず。或は 邪が残って去らず。或は 汗竅疎なるに (発汗が適切ではないために) 邪が復 (また) 侵入し、悪風 悪寒 発熱 自汗 盜汗 或は 咳嗽痰なく 五心煩熱 元氣なく 食欲なく 脈は数で力なく 巨里の動 (心尖拍動) が高ぶり 体が瘦せて 全く 勞瘵と同じような証を『風勞』という。庸医は邪が去らないゆえに、このような証があらわれるのを知らないため、ただ虚として、補中益気湯などの固表の剤を用いる。これは、いわゆる『引賊而閉門』なり。邪熱血分に入りて血を煎熬 (ごう・いる) するゆえに血氣虚して上記の証をあらわす。(中略) 虚熱いよいよ増すようなときに柴胡桂枝湯を用いれば、蒸々として振るえ (戦慄して) 発熱して汗が出で解す。やはり柴胡桂枝湯を用いて余邪を分解すべし」

「風勞」 陽氣が虚脱し表固まらず 邪が残存 邪熱
⇒ 血氣虚する ⇒ 虚熱

補中益気湯 ⇒ 固表剤 邪があるときに用いると「引賊而閉門」
柴胡桂枝湯 ⇒ 「余邪」を取り除くことが大切

本症例は余邪が残っている状態のため柴胡桂枝湯が奏効したと考えられます。

■ 柴胡桂枝湯と血の道症

玉田先生にご提示いただいた急性膵炎後心窩部痛の症例では月経前のイライラが改善しています。『餐英館療治雑話』(目黒道琢)では柴胡桂枝湯は「婦人 血氣不和 身体疼痛する者 大黃を加えて奇効あり」と記されており、婦人にみられる更年期障害類似の自律神経症状(ホットフラッシュや痛み・しびれ、精神症状)に用いられます。

■ 柴胡桂枝湯と痛み(図9)

『蕉窓方意解』(和田東郭)では、鳩尾の引き締めが強いために四肢の関節に氣が巡らず、痛みをきたす(支節煩疼)と記されており、桂枝湯で任脈を緩め、桂枝で表散させることから柴胡桂枝湯を用いると解説しています。

『傷寒論・金匱要略要方解説』(龍野一雄)では、榮衛の不調と津液不足で心腹の血が巡らず水分不足になり、痛みが起こると解説しています。さらに『傷寒・金匱』薬方大成八味以上編』(中川良隆)では、少陽の氣血の運行不暢によって、心腹の血巡らず上部胸脇から中部心下の痛み発作を繰り返すものに柴胡桂枝湯を用いると記されています。

■ 柴胡桂枝湯と精神症状(図10)

『傷寒論・金匱要略要方解説』(龍野一雄)では、譫語は亡

図9 柴胡桂枝湯と痛みについて

〈玉田先生〉

【48歳 女性】 心下支結 心窩部痛(急性膵炎後)

〈松本先生〉

【43歳 女性】 腹皮拘急 線維筋痛症による全身痛

● 和田東郭『蕉窓方意解』柴胡桂枝湯

「心下を桂枝 芍薬にて和 (やわ) らぐるなり。支節煩疼とは鳩尾に引きしむること強きゆえ 四肢の関節に氣めぐらず (中略) 桂枝湯を合方したるは 鳩尾より任脈をゆるむるためにして、また四肢関節までも桂枝にて表散することにもあるべし」

● 龍野一雄『傷寒論・金匱要略要方解説』

「榮衛の不調と津液と亡津液とにより心腹の血順らず、水分不足し乾燥して疼痛を起す。故に心腹卒中痛 (寒疝) という」

● 中川良隆『傷寒・金匱』薬方大成 八味以上編』

「少陽の氣血の運行不暢により、上部胸脇から中部心下にかけて痛みの発作を繰り返すものにより」

- ① 鳩尾の引き締め強い ⇒ 四肢の関節に氣巡らず ⇒ 支節煩疼
∴ 桂枝湯で鳩尾より任脈を緩め、桂枝で表散させる (桂枝 + 芍薬 ⇒ 心下を和らげる)
- ② 榮衛の不調と津液不足 ⇒ 心腹の血巡らず水分不足 ⇒ 心腹卒中痛
- ③ 少陽の氣血の運行不暢 ⇒ 上部胸脇から中部心下の痛み発作繰り返す

陽によって起こったもので、気血と水の調和が回復すれば自然に癒えることから、「通じさせる」ことが大切であると述べています。桂枝湯で営衛不和(陰陽不和)を調整して津液を巡らせ、小柴胡湯で上中胸心下の津液を通じさせることで、精神症状も改善すると考えることができます。

■ 柴胡桂枝湯と腹証「心下支結」

心下支結(上腹部、腹直筋の緊張)について大塚敬節は、胸脇苦満や腹直筋攣急などの所見がない場合でも柴胡桂枝湯が有効な場合も多いと報告しており、また「心下支結は柴胡桂枝湯の腹証の一つであっても、これがすべてではないと考える」と述べています。

人參養栄湯の口訣を考える

人參養栄湯は2017年の本シンポジウム(phil漢方 No.66)において取り上げており、「気血両虚、脾肺の虚に用いる処方であり、脾腎だけでなく陳皮・遠志・五味子で肺の働きを整えることで補気効果を高め、血水を作り出す力をつける」という口訣を導き出しました。

人參養栄湯は十全大補湯の処方構成から川芎を除き、陳皮・遠志・五味子を加えた処方で、先天の気(腎)だけでなく、後天の気(脾・肺)を補い、さらには心の巡りも改善する処方です。

原典の『和剤局方』では、「慢性の疲労で体力が低下して、

図10 柴胡桂枝湯と精神症状

〈玉田先生〉
[48歳 女性] 心窩部痛 心下支結 攻撃的口調 イライラ 奇立ち表情
[23歳 女性] 息苦しさ 心下支結 イライラ 動悸 不安感 焦燥感
[75歳 女性] 息苦しさ 心下支結 不安感 動悸
〈松本先生〉
[43歳 女性] 線維筋痛症 腹皮拘急 不眠 不安感

● 龍野一雄『傷寒論・金匱要略要方解説』

「栄衛を和するのには桂枝湯の作用だが、上中胸心下の津液を通じるのは小柴胡湯である。これによって発汗過多で津液を失ったものは栄衛を和して気血を順らせかつ津液を通じて亡陽状態を調和させる。証語は大承気湯証のごとく熱気上衝によったものではなく、亡陽によって起こったものだから、気血と水の調和が回復すれば自然に癒えることになる」

- 栄衛の不調和：衛気の守りが弱くなると血から水分の汗が漏れる
- 少陽位における栄衛(陰陽) 不和

証語は 亡陽 による ⇒ 気血と水の調和“通じさせる”(補うのではない) ことが大切
桂枝湯 ⇒ 営衛不和(陰陽不和)を調整して津液を巡らせる
小柴胡湯 ⇒ 上中胸心下の津液を通じさせる

手足が重だるい、体がうずくように痛む、呼吸が浅い、体全体の衰弱などの症状や、「悲しみ(肺)や憂鬱感(脾)、惨めで寂しい気がする」などの精神症状にも良いことが記されています(図11)。

● 咽頭違和感から出現した咳嗽に吸入薬や

抗アレルギー薬に追加した人參養栄湯が奏効した1例

木村 岡林先生に人參養栄湯の活用例をご紹介いただきます。

岡林 症例は33歳の女性で、主訴は咳嗽です。のどのむずむずが出現し、当院の他医師を受診しました。ご自身で五虎湯や小青竜湯を内服していましたが、頭がくらくらするため中止しました。また、花粉症にフェキソフェナジン塩酸塩の内服と大青竜湯(越脾加朮湯+麻杏甘石湯)、トラネキサム酸、カルボシステインを処方されましたが症状は改善しないため、再度の受診となりました。

当初は柴朴湯と麦門冬湯の処方で経過観察していましたが、のどのむずむずに加えて咳症状が悪化してきたことから、咳喘息とアトピー咳嗽の合併を考慮した治療に切り替えました。しかし、予想に反して効果不十分であったため、再度お話を伺ったところ、「夜遅くの偏った食事」「就寝時間は深夜」「腰もよく痛くなる」など生活習慣に問題がありました。そこで人參養栄湯 5.0g/日を追加したところ、症状の速やかな改善がみられました。服用開始1ヵ月後には症状が消失し、薬剤もすべて中止となりましたが、以降も症状なく過ごされています(図12：次頁参照)。

木村 気血両虚がないような33歳の若い患者さんですが、なぜ人參養栄湯が効いたのでしょうか。

岡林 元来は健康な女性なのですが、肺の症状のほかに夜遅くの偏った時間の食事で気虚・脾虚、就寝時間が深夜で血虚、腰痛があり腎虚の症状がみられましたので、気血

図11 人參養栄湯の原典

十全大補湯 - 川芎 + (陳皮 遠志 五味子)

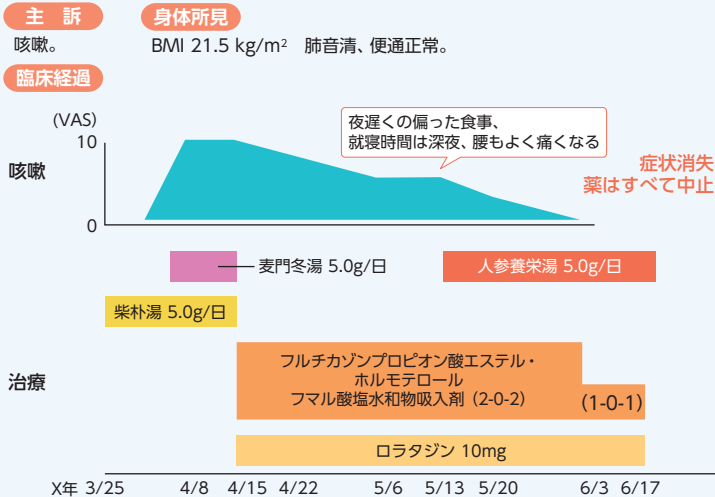
原典『太平惠民和剤局方』

慢性の疲労で体力が低下して、手足が重だるい、体がうずくように痛む、呼吸が浅い、行動すると喘(あえ)いで息切れする、下腹がひきつり痛む、腰から背が強ばり痛む、心が弱くなって少しのことにも驚き胸騒ぎがする(心虚驚悸)、喉や唇が乾燥する、飲食物の味が感じられない、体全体が衰弱、悲哀や憂鬱な感じを覚えて惨めで寂しい気がする(悲憂惨戚)、寝てばかりいる、長いものでは数年、早いものでは100日ほどで痩せ細る、内臓の働きが落ちて回復できないという者を治す。また肺と大腸が虚し、咳嗽、下痢、喘鳴、呼吸困難、嘔吐、咯痰があるものを治す。

第二部

両虚に加えて脾・肺・腎を補う人參養榮湯が必要と考えました。

図12 症例 33歳 女性



●10年続く鼻閉に人參養榮湯が奏効した一例

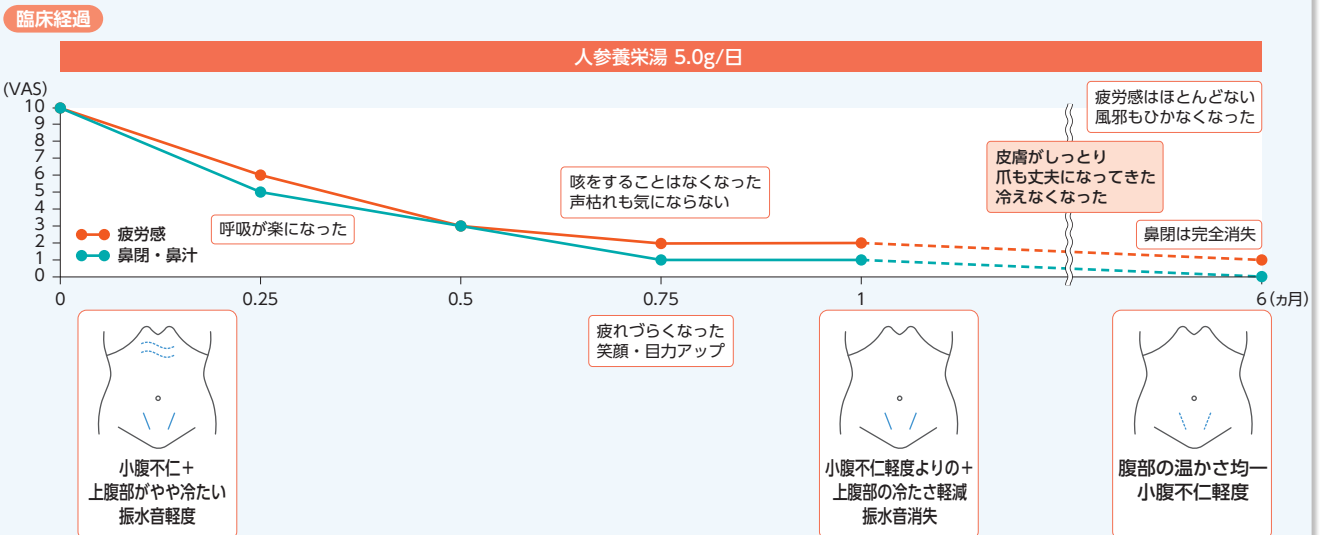
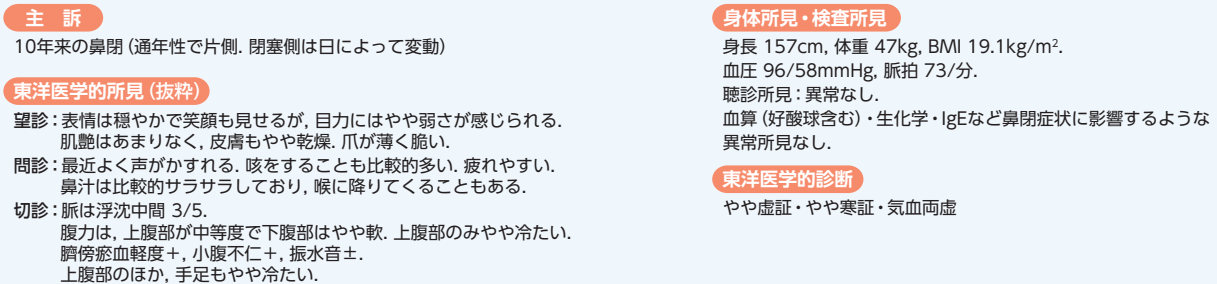
木村 鼻症状に人參養榮湯が有効であった症例のご経験を玉田先生にご紹介いただきます。

玉田 症例は62歳女性で、約10年前から片側の鼻閉を通年で自覚していました。花粉による季節性アレルギー性鼻炎以外に器質的異常は認めませんでした。米国在住のため、帰国中の1ヵ月間に漢方治療での症状緩和を希望して来院されました。

東洋医学的診断はやや虚証・やや寒証・気血両虚であり、人參養榮湯 5.0g/日(分2)を処方したところ、1ヵ月で鼻閉はほぼ気にならない程度に改善しました。以降も服薬を継続され、半年後の再帰国時には鼻閉が消失し、疲労感や冷え、小腹不仁の所見も軽快していました(図13)。

人參養榮湯には、補気・補血作用のある生薬に加え、止咳・去痰作用をもち、気道に良い影響を与える生薬も配合されているため、気血両

図13 症例 62歳 女性



虚を伴う鼻閉に有効だったと考えています。

木村 鼻閉とともに水様性鼻汁に対してなぜ人参養栄湯が効いたとお考えですか。

玉田 人参養栄湯には小青竜湯など水様性鼻汁に用いられる方剤に配合される五味子が含まれるうえ、本例では冷えの改善も鼻閉や鼻汁消失に寄与したと考えています。

●腰痛症と体力低下に人参養栄湯が奏効した症例

木村 人参養栄湯は老化関連症状にも応用されます。松本先生にご経験を紹介していただきます。

松本 症例は79歳の女性で、主訴は腰下肢痛、全身倦怠感、意欲低下です。1年前から腰下肢痛がありNSAIDsでは改善せず、硬膜外ブロックと苓姜朮甘湯で治療されていました。腰痛・下肢の筋力低下、めまい、脱力感、体全体のだるさの症状がありました。

初診時に処方した加味帰脾湯は効果不十分で、さらに随伴する症状(下半身が疲れる、何もする気が起きない、横になってばかりで気力が出ない)から「多臥少起」と考えて人参養栄湯 7.5g/日を処方したところ、5ヵ月後には腰痛およびその他の症状は消失しました(図14)。

罹病期間が長期化すると気血が次第に虚し、全身倦怠感などの症状が現れますが、人参養栄湯は気血両虚・虚寒状態を補正し、体力低下や意欲減退を改善します。食欲回復を促し、全身の倦怠感や冷えの改善にも寄与します。また、慢性腰痛や下肢疲労にも、体全体の改善を通じて間接的に疼痛軽減に寄与することが期待されます。

木村 この患者さんは全身倦怠感がありますが、食欲はあり、さらに腎虚の症状があるということで、八味丸との鑑別も必要になると思いますがいかがですか。

松本 八味丸も有効だと思いますが、本症例は多臥少起で、いつも横になっているばかりで、食欲があるといっても胃腸が強いほうではないと考えて、地黄に加えて人参が配合されている人参養栄湯を選択しました。

●フレイル患者の食思不振に人参養栄湯が奏効した症例

木村 食思不振のフレイル患者さんに人参養栄湯を使用した経験を幕内先生にご紹介いただきます。

幕内 症例は66歳の男性で、主訴は食思不振です。

X-2ヵ月頃から食思不振、両足の痺れと疼痛が出現しました。X-1ヵ月頃に他院整形外科にて施行された腰椎MRI検査で椎体骨の異常陰影を指摘され、転移性骨腫瘍が疑われましたが、各種画像検査で明らかな悪性腫瘍はなく、精査目的で当科紹介となりました。精査の結果、異常陰影の原因はアルコール多飲(焼酎 1.8L/3日)による造血髄再転換と判断しましたが、ご本人より食思不振に対して漢方を含む投薬希望がありました。アルコール多飲によるフレイル状態と考えて、人参養栄湯 2包/日を開始することにしました。

服用1ヵ月後には改善傾向がみられており、人参養栄湯が有効であると判断して継続処方としました。外来で節酒を指導しましたが、飲酒量には変化はありません。

アルコール多飲という一番の原因が取り除かれていない状況でも、人参養栄湯の効果を実感することができた症例でした(図15：次頁参照)。

木村 食思不振があると六君子湯との鑑別も必要だと思いますがいかがですか。

幕内 食べることはできているので、胃腸機能はある程度保たれていると考えました。皮膚の乾燥、抜け毛といった血虚の症状がみられたので人参養栄湯を選択しました。

図14 症例 79歳 女性

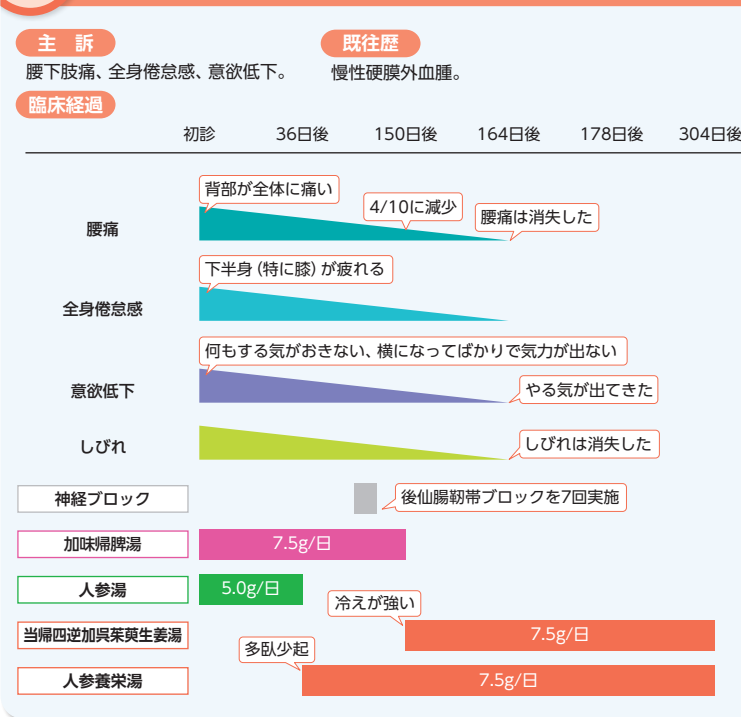


図15 症例 66歳 男性

主 訴

食思不振。

随伴症状

両足感覚異常（痺れと疼痛）。

身体所見

身長 170cm、体重 54kg（2ヵ月で3kg減少）、BMI 18.7kg/m²、血圧 144/90mmHg、脈拍 121/分、体温 36.5℃。

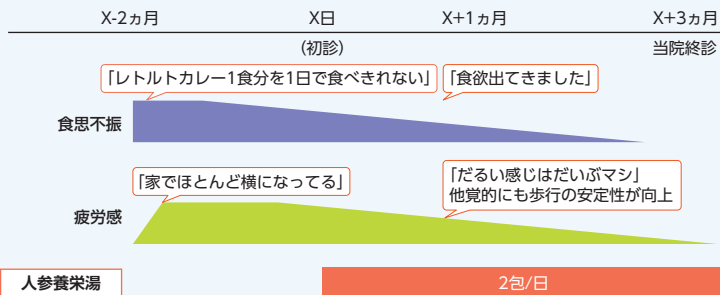
身体所見／検査所見

歩行はゆっくり。顔色不良。頭頸部～腹部・四肢関節に特記事項なし。
両足背に温痛覚低下あり、両側足背動脈触知良好。
血液検査：大球性貧血あり。ビタミン・甲状腺機能・糖尿病は基準値内。

東洋医学的所見

望診：皮膚乾燥あり、やせあり、疲労感あり、歩行不安定、軟便傾向あり。
脈診：数脈あり、腹診：腹力弱い。

臨床経過



※この間、1週間に2日の休肝日を作ることができたが、飲酒量（焼酎1.8L/3日）は変化なし。

●全身倦怠感・悲壮感に人參養栄湯が奏効した一例

木村 フレイルは身体的要因に加えて、精神的要因と社会的要因が絡む病態ですが、漢方治療はその両方に貢献する可能性があります。全身倦怠感や気力低下などもある高齢患者さんに人參養栄湯を使用した経験を玉田先生にご紹介いたします。

玉田 症例は80歳男性で、主訴は全身倦怠感や気力低下があり、病気の妻に優しく接することができないというものでした。もともと、倦怠感や気力低下のため漢方治療を受け、症状は安定していましたが、妻の難病発症を機に介護で多忙となり、通院困難から治療を中断されました。その結果、倦怠感などの症状が悪化したうえ苛立ちも募り、妻に優しくできないと悩んでおられました。市販の補中益気湯や六君子湯を服用しても症状が緩和せず、不安になり、治療中断から約半年後に再受診されました。

東洋医学的所見より、虚証・やや寒・気滯（気鬱）・血虚と診断しました。特に気滯が目立った

図16 症例 80歳 男性

主 訴

全身倦怠感、気力低下、
病気の妻に対して優しく接することができない。

既往歴

35歳：うつ病 63歳：高血圧・高脂血症
73歳：睡眠時無呼吸症候群
76歳：腎硬化症・前立腺肥大

身体所見

身長 157cm、体重 53kg、BMI 21.5kg/m²。
血圧 133/69mmHg、脈拍 75/分。

臨床経過

東洋医学的所見（抜粋）

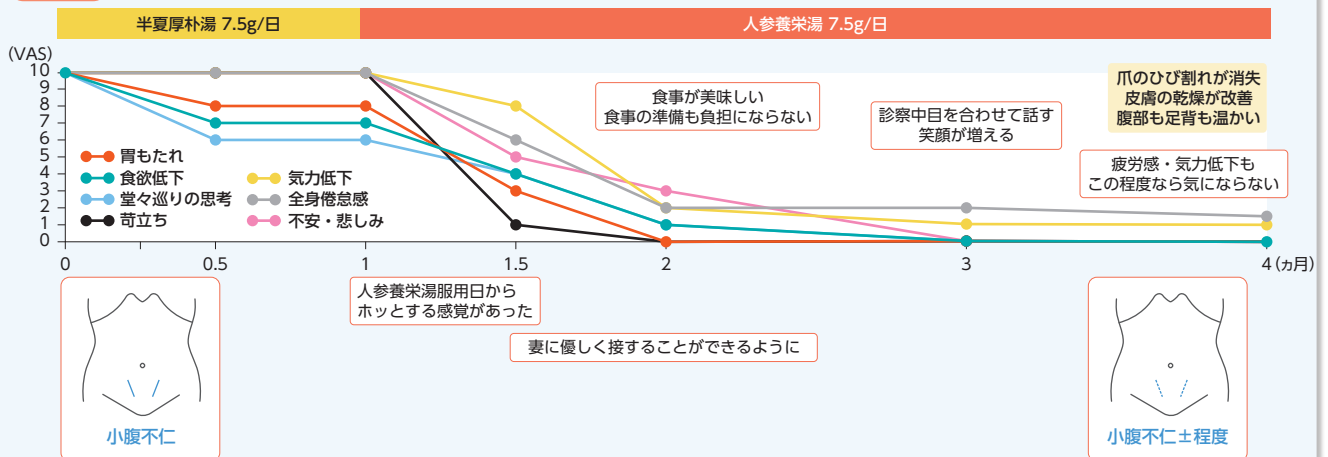
望診：常に下を向き、なかなか目を合わせようとしませんが、目力は比較的保たれている。
白髪あり。肌艶に乏しく、体幹および四肢の皮膚は乾燥。爪のひび割れを認める。
暗紅舌、白苔（舌尖近くは一部剥離）、舌下静脈の怒張あり。

聞診：小さな声でぼそぼそと話す。詳細な内容だが、同じ話を繰り返す傾向あり。

問診：食欲低下あり。間食したいが、間食すると胃もたれを生じる。
倦怠感や気力低下、苛立ちに加え、不安や悲しみの感情も混在している。
妻の病気と自身の体調不良について1日中考えてしまう。

切診：脈は浮沈中間 3/5。腹力はやや軟。小腹不仁＋。

厚手の下着や腹巻、セーターなどを重ね着している影響で、腹部全体は温かさを保っている。
そのほか、足背の冷えあり。



ため、まず気を巡らせる目的で半夏厚朴湯 7.5g/日を投与しました。その結果、胃もたれや堂々巡りの思考は軽快しましたが、倦怠感や気力低下は改善せず、血虚所見や小腹不仁も残存していたため、気血両虚と再診断しました。さらに、苛立ちに不安や悲しみの感情も伴い、精神状態の不安定さが続いたことから、補気補血に加え安神作用も有する人參養栄湯 7.5g/日(分3)へ転方しました。転方後は全症状が2週間以内に軽快し、3ヵ月後には気にならない程度まで改善した著効例です(図16)。

木村 人參養栄湯の服用で胃もたれの悪化はなかったのですか。また、うつ既往があり、不安や悲しみの症状からは加味帰脾湯も鑑別に挙がるとは思いますがいかがですか。

玉田 服用で胃もたれが悪化することではなく、むしろ食事が美味しいと感じられるまでに回復されました。人參養栄湯には、人參・朮・陳皮などの胃腸機能を整える生薬が含まれており、これが良い影響を与えたと考えています。

また、精神症状に関しては加味帰脾湯も鑑別に挙がりますが、本例では年齢的に腎虚を考慮し、胃腸機能を整えつつ、安神作用もあり、さらに補腎作用をもつ生薬も配合されている人參養栄湯を選択しました。

●人參養栄湯による妊婦貧血、疲労感に対するアプローチ

木村 人參養栄湯エキス製剤の効能又は効果に「貧血」があります。妊娠時の貧血に人參養栄湯を使用した経験を渡邊先生にご紹介いただきます。

渡邊 症例は41歳の妊婦で、妊娠31週時に疲労感、倦怠感を訴えています。

妊娠25週の中期検査でHb 9.9g/dLと貧血を認め、27週から鉄剤の内服を開始しましたが、29週時に動悸と疲労感、胃もたれの訴えがありました。その後も鉄剤を継続して経過観察していましたが、31週時に症状が持続していたため人參養栄湯 7.5g/日の投与を開始したところ、33週時には動悸、疲労感の回復の自覚ありました。35週時にはHb値は横ばいでしたが、症状は改善していました。胃腸症状が改善したため、妊娠後期は貧血の改善を目的に鉄剤を再開しましたが、以降は症状の再燃などの訴えもなく、人參養栄湯の投与も終了としました(図17)。

妊娠中は血液量の増加に伴ってHb値の低下をきたしやすく、全妊婦の約20%に妊娠貧血を

発症するとされています。妊娠貧血は進行すると、ふらつき、動悸、息切れ、倦怠感、疲労感などの症状が現れますが、貧血に特異的な症状ではなく一般妊婦にも認められる症状のため、気づかれないことも多くあります。また、妊婦の約半数に便秘の症状がみられますが、鉄剤の内服で胃もたれや便秘などの胃腸症状がさらに悪化することがあります。鉄剤の内服が困難な場合や、鉄剤の内服後も疲労感が持続する場合などは、人參養栄湯による維持療法なども良い適応となると考えました。

木村 この患者さんには胃もたれの訴えがありましたが、人參養栄湯の服用で胃もたれは悪化しなかったのでしょうか。

渡邊 悪化というよりはむしろ改善して、35週からの鉄剤の内服にもそのままつなげることができました。

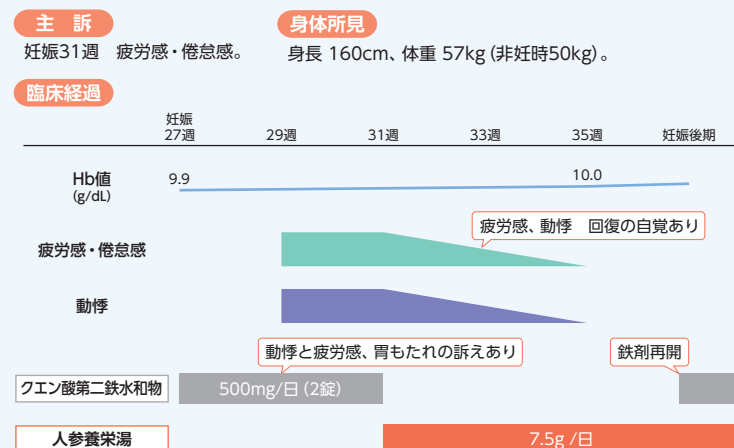
●人參養栄湯で改善した鉄欠乏を伴う双極症の1例 ～栄養精神医学の視点から～

木村 大田先生からも鉄欠乏の症例をご紹介します。

大田 症例は38歳の女性で、双極症で通院されています。X-2年、前医より血清低フェリチン値を指摘され近医内科を受診しましたが、貧血ではないため経過観察となっていました。服用していた薬剤は効果不十分な状態でした。

受診時、気分の波があり、寝起きが悪いことに加え、採血では血清フェリチン値は測定以下でした。胃腸の状態は不良であり軟便で、ヘム鉄も服用できなかったため、人參養栄湯 7.5g/日(分2)の投与を開始しました。服用後経時的に症状の改善がみられ、血清フェリチン値は3ヵ月後に4.1ng/mLと測定可能な値に上昇し、6ヵ月後には7.7ng/mLまで上昇しました。9ヵ月後には、開眼・発語ははっ

図17 症例 41歳 妊婦



きりしており、元気な状態が伝わってきました。この時の血清フェリチン値は12.2ng/mLでした(図18)。

人參養榮湯の服用で血清フェリチン値が改善しましたが、3ヵ月後のCRP値は0.03mg/dLであり、以降も炎症による上昇因子はありません。また、9ヵ月後のBUNは9.2mg/dL、MCVは80.3fLといずれも上昇を認めました。

有経女性では、双極症の背景に鉄欠乏が隠れていることがあります。鉄欠乏状態では、抑うつ状態や多動など、あたかも双極症のような症状を呈することがあります。また、双極症に鉄欠乏が合併すると、向精神薬の効果が不十分であったり、心身の不調が遷延することが多いです。人參養榮湯は、小腸の粘膜上皮や絨毛の機能を整え、鉄を含む栄養素の吸収を高めることで栄養状態の改善に寄与します。本症例では、人參養榮湯により血清フェリチン値の上昇とともに心身の不調が改善しました。

木村 人參養榮湯の服用で食欲が改善し、気分も良くなったということですが、十全大補湯との鑑別についてはいかがですか。

大田 十全大補湯と人參養榮湯の共通生薬である人參、白朮、茯苓は胃腸の働きを整えてくれますが、人參養榮湯には陳皮が配合されており、これが胃腸に動きを促して力をつけてくれます。また、遠志、五味子が配合されており、ストレスによる食思不振にも効果があると考えて人參養榮湯を選択しました。

●人參養榮湯のまとめ(図19)

木村 シンポジストの先生方からいろいろな症例をご紹介いただきました。主訴の他にも肺・脾・腎の様々な症状や所見がありました。

人參養榮湯には地黄が配合されていますが、食欲低下や胃もたれがあっても、極度の食欲不振や下痢などの裏寒がひどくなければ使用できるということでした。また、軽度な精神症状も人參養榮湯によって改善することもご提示いただきました。

2025年の現代の口訣(図20)

■ 柴胡桂枝湯

木村 柴胡桂枝湯は小柴胡湯と桂枝湯を合わせた処方であり、上下(心下支結)と表裏(榮衛の不和)の気血と水を調和させる処方です。榮衛を和して、気血を順らせ、津液を通じさせる、補う処方ではなく通じさせるというところがポイントです。

心下支結は柴胡桂枝湯を用いる有効な所見ですが必須ではありません。少陽位における榮衛の不和による様々な症状に用いられます。

■ 人參養榮湯

木村 人參養榮湯は気血両虚、脾・肺の虚ということで、先天の気と後天の気を補う処方であり、陳皮・五味子・遠志が配合されているので脾・腎だけでなく肺の働きも整え

図18 症例 38歳 女性

疾患

双極症。

現病歴

X-2年 前医より採血で低フェリチン(測定不能)を指摘され、近医内科を受診したが貧血はないため経過観察となっていた。X年Y月 ラモトリギン、ミルタザピン、アリピプラゾールを服用していたが効果不十分。

身体所見

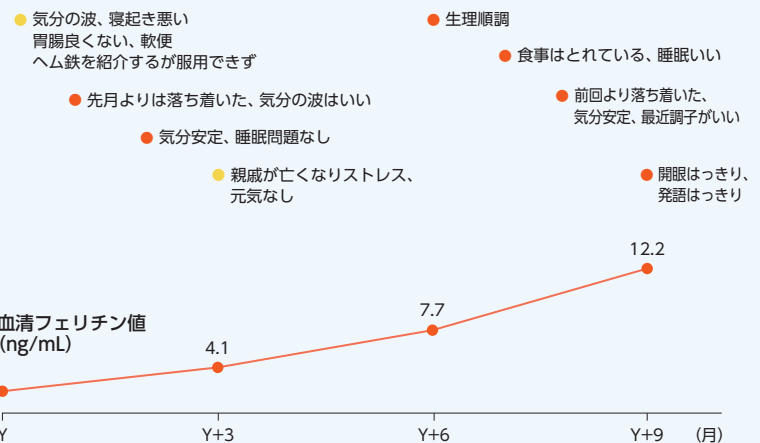
身長 163cm、体重 75.2kg、血圧 124/88mmHg、脈拍 84回/分、体温 36.5℃。

東洋医学的所見

脈候：沈、小、虚、舌候：淡白、紅、湿、微白苔。

臨床経過

人參養榮湯 7.5g/日(分2)



ることで補気効果を高め、血水を作り出す力をつける処方です。肺については咳や鼻症状、また皮膚の乾燥などにも良い処方です。

人參養榮湯は地黄が配合されていますが、陳皮も配合さ

れているため、食欲低下や胃もたれがあっても極度の食欲不振や下痢などの裏寒がひどくなければ使用できる処方です。また、“気虚から気うつ”になった抑うつ状態では、人參養榮湯が有効な場合があります。

図19 人參養榮湯の症例

所見 (BMI)	岡林先生 33歳 女性 (21.5)	玉田先生 62歳 女性 (19.1)	松本先生 79歳 女性 (瘦せ)	幕内先生 66歳 男性 (18.7)	玉田先生 80歳 男性 (21.5)	渡邊先生 41歳 (妊婦)	大田先生 38歳 女性 (28.3)
主 訴	咳喘息	鼻閉	腰下腰痛 全身倦怠感 意欲低下	食思不振	全身倦怠感 気力低下 病氣妻にイライラ	疲労感 倦怠感	気分の波 寝起きが悪い
胃腸症状 気虚症状	食欲普通 便通正常	食欲普通 便通正常 疲れやすい	食欲普通 やや便秘 全身倦怠感	食欲低下 軟便傾向 疲労感・倦怠感	食欲低下 (間食はしたい) 普通便 全身倦怠感	胃もたれ 便通正常 疲労感	胃腸よくない 軟便傾向
精神症状	—	—	意欲低下 気力がない	—	不安・悲しみ イライラ	—	気分の波 寝起きが悪い
その他	夜遅く偏食 深夜就寝	水様性鼻汁・鼻閉 咳をしやすい 皮膚乾燥・爪もろい	—	皮膚乾燥 アルコール多飲	皮膚乾燥 爪の割れ 足の冷え	動悸	—
腎	腰痛	手足の冷え 小腹不仁	腰下腰痛	両足痺れ・疼痛	小腹不仁	鉄欠乏性貧血	フェリチン低下
鑑別処方	—	—	八味丸	六君子湯	加味帰脾湯	十全大補湯	十全大補湯

- 肺=咳・鼻症状 + 水(体液の枯渇・皮膚乾燥)
- 食欲低下や胃もたれがあっても、極度の食欲不振や下痢などの裏寒がひどくなければ使用できる
- 軽度な精神症状も人參養榮湯によって改善する

図20 2025年の現代の口訣

1 柴胡桂枝湯

- 小柴胡湯+桂枝湯：上下(心下支結)+表裏(榮衛の不調和)の気血と水の調和をさせる
- 榮衛を和して、気血を順らせ かつ 津液を通じさせる(補うのではない)
- 心下支結(上腹部 腹直筋の緊張)は柴胡桂枝湯を用いる有効な所見(必須ではない)
- 少陽位における 榮衛(陰陽)不和の症状が目標となる
 - 感冒 急性気管支炎 反復・持続する感冒様症状(虚弱体質)
 - 消化器症状(心窩部痛 過敏性腸症候群など) 精神症状(不安感・イライラ) 息苦しさ
 - 痛み 冷え 血の道症 etc.
- ① 痛み「不通則痛」：上下+表裏(榮衛)の不和
 - 頭痛 心下部痛 腹痛 筋肉痛 肋間神経痛 関節痛 腰痛 肩こり など
- ② 冷え：肝気鬱結を散じる生薬が含まれるので、交感神経の過緊張による冷えに有効

2 人參養榮湯

- 気血両虚+脾“肺”の虚
- 先天の気(腎)と後天の気(脾、肺)を補う処方：脾腎だけでなく、肺(陳皮・五味子・遠志)の働きも整えることで補気効果を高め、血水を作り出す力をつける
- 肺=咳・鼻症状+水(体液の枯渇・皮膚乾燥)
- 地黄製剤であるが、陳皮が入っているため、食欲低下や胃もたれがあっても、極度の食欲不振や下痢などの裏寒がひどくなければ使用できる(参考) 八味丸 十全大補湯
- “気虚から気うつ”になっている場合に、抑うつ状態も改善できる(参考) 加味帰脾湯：気うつが強い